

# 一般社団法人日本老年看護学会の概要

目的：老年看護学の学術的発展と教育・普及、看護実践の質向上を図り、もって人々の健康と福祉に貢献すること

設立：1995年11月

会の概要：会員数 2,937人

- ・半数が看護系大学等の教育・研究職、  
半数が病院や施設・訪問系の看護職
- ・今年6月に対面開催した学術集会には2,323人が参加

# 認知症基本法および認知症施策推進基本計画を受けた取組

- 2024年度よりプロジェクト委員会を組織し、2016年に本学会が出した提言（急性期病院において認知症高齢者を擁護する）について、認知症基本法の考え方を取り入れて改訂案を検討
- 2016年版の特徴：急性期治療を行う病院において認知症をもつ高齢者に適切な看護を提供できる基盤を創るための考え方を提示



## 改訂作業のポイント：

①看護職と家族からの意見に基づいた2016年版に対し、改訂では、認知症の人本人の意見も得る、②基本法に則り、対象者を「認知症高齢者」から「認知症の人」に拡大、③急性期治療の場に限らず、医療機関で広く活用してもらえ指針となることを目指す。

※改訂案を考案し、現在、認知症の人、家族（主に“認知症の人と家族の会”）、医師、本学会会員等にコメントを求めている。

# 認知症の人と医療機関の架け橋となる看護への提言(案)

1. 看護職はみずからの認知症に対する認識を振り返り、時代に合うに認知症観へと更新していきます。
2. 認知症の人の日々の意向に気づき、意思決定支援を積み重ねていきます。
3. 認知症の人ならびに家族との対話を通して望む生活のあり方を共有し、その実現に向けた最善の医療・ケアを提供していきます。
  - ①安全性と行動の自由が両立する医療・ケアを目指していきます。
  - ②認知症の人の言葉や表情、振る舞いに深い関心を寄せ、伝えたい思いに真摯に向き合っていきます。
  - ③療養前後の生活の継続性に注目し、認知症の人の「できること・やりたいこと」を引き出す・奪わない援助を行っていきます。
  - ④認知症の人ならびに家族の「知りたい・知ってほしい」という思いを中心に、医療機関の内外に在るさまざまな人々と手を携え、支えていきます。

# 認知症の人と医療機関の架け橋となる看護への 提言(案) (続き) と今後の課題

- ⑤認知症の人の持てる力を引き出す、居心地のよい環境を創っていきます。
- ⑥これまでに表明された認知症の人の思いを紡ぎ、最期まで自分らしく生きることを支えていきます。
- 4. 家族がおかれている状況や揺れる思いを受け止め、それぞれが納得のいく選択と対応ができるよう支援していきます。
- 5. 医療機関が共生社会の一員として信頼される存在となるよう力を尽くしていきます。

## <今後の課題>

- ・ 本提言の決定、公表
- ・ PRし、提言内容の実現に向けた活動に取り組む

# その他、認知症に関連した事業等

- 2025年6月28日～29日に千葉市で行った第30回学術集会にて
  - 特別講演「認知症基本法と基本計画－自分らしく暮らすための課題－」  
(演者：繁田雅弘氏)
  - ランチオンセミナー「認知症看護の“これから”」  
(演者：中島紀恵子氏)
- 本学会が編集を担当した書籍「認知症看護スタンダード」が刊行された。  
(2025年5月、照林社)